

令和6年度 第1回美瑛町ゼロカーボン推進協議会議事録

日時：令和6年12月20日（金）

午後1時30分から午後2時30分

場所：役場4階委員会室

・出席者

会長及び副会長：角和 浩幸（会長）、笹本 幹也（副会長）

委員：千葉 一夫、西海 博之、津幡 嘉人、原 直子、東又 章

アドバイザー：日谷 知章、鈴木 亨、島田 真吾、長谷川 一也

その他：坂上 隆則、高松 重和

事務局：まちづくり推進課 観音課長、大庭室長、大畑係長

室蘭工業大学 MONO づくり振興機構 吉成副機構長

室蘭工業大学もの創造系領域 建築学ユニット 栗原准教授

1 開 会

2 挨拶 角和町長

3 協議

- (1) 美瑛町地球温暖化対策実行計画（区域施策編・事務事業編）（案）
について

説明員：まちづくり推進課地域みらい創造室 大畑係長

資料2、3の資料をもとに説明

質疑応答：下記のとおり

- (アドバイザー) 計画1ページの数字については、IPCCの一次報告書の数値となる
と思うのですが、現在6次まで策定されており、7次を作成中である
状況であります。そのため、計画に記載される数値は最新の報告
書の数値を使用したほうがよいと考える。

(事務局) 新しい情報を記載するようにします。

(委員) 計画20ページの図11にある「誰からも愛され続けるみんなの美瑛町」という表記がゼロカーボンを目指すことからしたら少し曖昧な部分があると思うので、ゼロカーボンへの目標がわかりやすい文言に修正が可能でしたらしてもらいたい。

(事務局) 昨年度策定した再エネポテンシャル調査の計画にあった内容であるため、今回の計画で修正する。

(委員) 計画10ページから記載されているCO₂排出量の将来推計について、2021年6月発行されているAIM(国立環境研究所)モデルをベースにしていると思うのですが、運輸部門においては、EV、FCVに置き換わる前提でやっていました。しかし、現在の社会情勢は少し変わってきているので、今後改めていく必要があると思う。

(事務局) 最新の情報をもとに修正させていただく。

4 意見交換

説明員：まちづくり推進課地域みらい創造室 大畑係長

資料4をもとに令和6年4月から実施したゼロカーボン関連の事業を説明

(委員) 小水力発電、太陽光発電設備の導入目標としてどのぐらいのスケジュールを予定しているのか。

(事務局) 計画28ページに掲載されておりますとおり計画としては2,200kwとしている。今回の垂直型太陽光設備の実証事業をこれからの3年間を予定している。その後、本格的に稼働するのが、2029年以降を予定している。

水力発電施設においても計画29ページに掲載されておりますとおり、2029年以降には稼働できるように調整しているところであります。

(委員) 7月に実施した電動キックボードの実証事業では、ビルケから青い池までのルートによる実証事業であったと思うが、もし来年度以降も実施するのではあれば範囲を広げて白金温泉エリアから実施してもらおうとありがたいと思っている。

(事務局) 来年度以降の実証事業については北海道開発局からは話を伺っていない状況である。また、ゼロカーボンモビリティの部分を含めたアンケート調査を実施する予定である。

今年度、観光協会のほうでは市街地からの移動手段としての貸し出しを実施している。電動キックボードをはじめとする新しいモビリティの可能性を探っていきたい。

(委員) 太陽光発電設備の実証事業の途中経過や最終的な結果については一般公開など情報提供をしていただくことは可能でしょうか

(事務局) 中間報告を含め、ゼロカーボン推進協議会の委員の皆様に対しても情報共有をさせていただきたいと思っている。

(委員) ゼロカーボンは関心のない方は多くいる状況であり、特にご高齢者の方は理解できないのではないかと思うため、地区ごとへの説明会などを実施してもらいたい。

町民コメントのなかにバイオトイレという記載もありましたが、青い池とビルケのトイレが汚れていました。観光地でもあるため、バイオトイレを導入してみてもいいと思います。

(事務局) 広報だけだと見る機会が少ない方もいるかと思いますが、今回の婦人連絡協議会の研修会のように各団体で実施している研修会にゼロカーボンを盛り込んでもらえるよう進めていきたい。

バイオトイレについては、旭山動物園で導入していたかと思うので、確認し、本町でも導入できるか検討していきたい

(アドバイザー) 計画のページも多いため、町民に伝えたいポイントをまとめた概要版のようなものがあつたらより理解しやすいのではないかと思います。

(事務局) わかりやすいよう努める。

5 その他

6 閉会